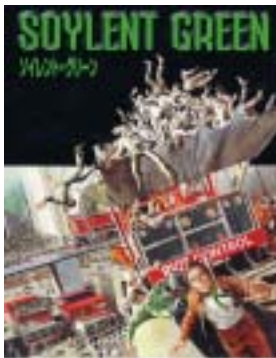




ビオトープ・サロン 持続可能な開発のための教育（ESD）が求められる今こそお勧め

寄稿：榎本幸実（会員）



【37年前のSF映画“ソイレント・グリーン”を今に！】

2022年ニューヨーク、人々は飢えていた。爆発的な人口の増加と環境汚染により、食糧問題は深刻を極めていた。同年、ソイレント社は合成食品ソイレント・グリーンを発表。問題は解決に向かうと思われたとき、同社の社長が自宅で殺害されているのが発見される。殺人課のソーンが捜査に乗り出す。その背後には食糧危機打開のための政府の陰謀が渦巻いていた…。

SF作家ハリー・ハリソンの小説「人間がいっぱい」を、「ベン・ハー」「猿の惑星」のチャールトン・ヘストン主演で映画化。娯楽性を極力廃し描かれた絶望的な未来像と、ベートーベンの「田園」にのせて語られる驚愕の真実がSFファンを魅了する！

（イラスト・解説文ともにDVDパッケージより転載）

1992年のリオ宣言以来、地球環境への関心が地球規模で高まりを見せています。「環境と経済の好循環」「グリーン・ニューディール」「緑の経済と社会の変革」が推進される一方、様々な歪みが生じているのではないのでしょうか？この宣言は、遡ること20年の1972年ストックホルム宣言に端を発します。当時ローマクラブから「成長の限界」が発表され、世界に衝撃を与えました。こうした背景の中で、1973年にチャールトン・ヘストン主演のSF映画「ソイレント・グリーン」が封切られていました。

あれから37年、社会活動として環境保全活動に関りはじめ10年余りになりますが、いつ頃だったか、この映画の記憶がよみがえり、「今こそ放映すべき映画だ！」との思いに駆られたことがありました。TVでの放映を期待しつつのある日、娘や息子と映画の話をした折に「DVDがあるのでは？」と娘から。調べてみると、なんと2003年にDVDが発売されていたのです。早速ネット・オークションに…入手することができました。

機会があれば皆様にも是非、お勧めしたいと思います。あくまでもジャンルはSF娯楽映画です。しかし、様々な描写とともに、セリフの端々に込められた深いメッセージが鑑賞する者の感性に問いかけます。

地球温暖化、生物絶滅、人口問題、格差社会やジェンダー、科学文明過信への警鐘など。一握りの大富豪と多数の貧困者、中流家庭は存在せず、家具としてしか扱われない若くて美しい女性たち、そして失業者やホームレス、安楽死の施設、葬儀の習慣は失われゴミ収集車で運ばれる遺体…などなど。そして、結末には…！

DVDには、オリジナル版と音声解説版（監督リチャード・フライシャーと主演女優の対話風解説）の2本が収録されています。まずは、オリジナル版を、次に音声解説版を、そしてもう一度オリジナル版を、これがお勧めです。

お近くのレンタル・ショップで手に入らない場合は貸し出ししますので、「E-mail: kanv@nifty.com（榎本）」まで。「貸し出し無償/期間1週間/送料自己負担」ということで。期待はずれの場合はご容赦ください。

ところで、1972年はオイルショックで大騒ぎになった年でもあります。今こそ、あの危機感が必要ではないでしょうか。当時は、ガソリンスタンドの土日・祝日の休業、国営・民放を問わず深夜放送の自粛等、国家あげての省エネ対策で乗り越えました。しかし、その一方で1975年に赤字国債の垂れ流しが始まり、今や862兆円、国民一人当たり換算して700万円に及ぶとか。こうした中、経済疲弊の打開策として、環境、防災、福祉、教育をキーワードとした「未来のための補助金投入」は「未来への大きなツケ」が増すばかりでは？…といった声も聞かれます。

地球環境に目をやると、気候変動や野生生物絶滅に止まらず、トリインフルエンザに代表される人獣共通感染症の拡大、狂牛病に口蹄疫、遺伝子組換え食品の流通は拡大し、穀物流通が食糧や飼料から燃料へ。また、難民が増大する一方で、十億超で更に人口増加が予想される中国とインドの著しい経済成長など。食料自給率が低いわが国にとってはTPPの一次産業への影響も心配ですね。持続可能な社会を形成する上で、多くのリスクを抱えているようです。

勢いで、書き連ねてしまいましたが、ソイレント・グリーンに込められたメッセージは、絶望的な未来像を描くことで、そうならないことを願っての、世界に向けた警鐘に他ならないのではないのでしょうか。

ビオトープ・サロン 熱血オジサン奮闘記！ ～ブログ-ビオトープ気延の里～

寄稿：石井町のわんぱくおじさん（ビオトープ気延の里）

【稲刈り ～田んぼのビオトープへ集合～ 9月3日 晴れ】



9月3日 晴れ 今日暑いわ！9月に入っても連日の35度。でも今日は子供たちが待ちに待った“稲刈り”。石井小学校児童約100人が田んぼのビオトープへ集合しました。我々ビオトープ気延の里のメンバーも20人あまり集まってお手伝い。

去年はいっせいに田んぼの中に入ったのでごちゃごちゃになって手間がかかりましたが、今年は反省をし、整然と田んぼに入って刈り取りをしました。なんととっても安全に、そして子供たちの思い出になるような、そんな思いで3組に分かれて。

刈り取ったお米は今年も天日干しです。大変な労力ですが、小学校からの要望でした。これにはベテランの、しかもプロの方々（私の同級生です）が助けてくれました。後は乾燥を待って、脱穀、もみすりをして10月には“ライスパーティー”です。

新米でカレーライスとおにぎりを作っていただきます。楽しみです。

ビオトープ・カルテ みんなで集めるビオトープ情報

記者：櫻本幸実（会員）



【希少種の安易な人為的移入が在来種の生存を脅かす】

ビオトープ・タイプ：ため池
 規模：約2.5 ha
 環境特性：水深約1m / ヒシが一面に分布 / 一部にアサザが生育
 周辺土地利用：農業地域 / 水田が広がる
 撮影年月日：2010年7月25日～9月23日
 場所：希少種関連のため非特定



アサザの自生地として保護されている。5年ほど前に鳴門市内のため池からオニバスの種子が持ち込まれ、数年前から一面を覆うまでに拡大した。

このオニバスの被圧により、希少種のアサザをはじめ、在来のヒシやマツモの生育が脅かされている。また、バンの生息地ともなっている。

オニバスが葉を広げる7月まではヒシが優先し、一部にアサザの群落を確認できる。昨年は日ごとにオニバスが優先し、秋にはオニバスが一面を覆った。

バス釣りの来訪者が多かったが、オニバスの異常繁殖後は冬に水を切るようになり、ブラックバスは姿を消した。空気呼吸のライギョは生息し続けている。

写真上は葉を広げ始めたオニバス、写真中はチョウトンボ、写真下はバンの家族で雛はオニバスの葉の上を闊歩する。



近隣のため池でも人為移入の希少種（アサザとオニバス）を発見・・・ヒシは在来



撮影:2010.07.24



撮影:2010.09.23

ビオトープ・サロン お知らせコーナー

記者：編集担当

【都市の生物多様性フォーラム：暮らしの緑を考える】

新春の1月22日(土)に、NPO法人徳島環境カウンセラー協議会との共催で、「住いの庭」「生垣」「街路樹」「公園」「学校」「公共施設」の緑を「地球温暖化防止と生物多様性保全」の視点から考えるフォーラムを開催します。

12月下旬には、案内チラシをホームページの「お知らせ」にアップする予定です。是非、ご参加ください。

編集後記

今号は構成の都合により、ビオトープ・セミナー(資格試験過去問題)は024号でご紹介します。

ビオトープに関するお役立ち情報のもとより、皆様の活動やお仕事、日常生活を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。ふるってご参加ください！ 編集：河野登子

【E-mail : tokotoko.utani@gmail.com URL : http://biotopetokushima.yu-yake.com】